

## «精神障害者保健福祉手帳診断書をご希望される方へ»

以下の問診票にすべてご記入ください。

### 【1. 生活能力の状態】

適切な食事摂取

- 自発的にできる
- 自発的にできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

身辺の清潔保持、規則正しい生活

- 自発的にできる
- 自発的にできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

金銭管理と買い物

- 適切にできる
- おおむねできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

通院・服薬

- 適切にできる
- おおむねできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

他人との意思伝達、対人関係

- 適切にできる
- おおむねできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

身辺の安全保持、危機対応

- 適切にできる
- おおむねできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

社会的手続きや公共施設の利用

- 適切にできる
- おおむねできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動への参加

- 適切にできる
- おおむねできるが援助が必要
- 援助があればできる
- できない

【2. 現在の病状、状態等 ※該当項目を全て○で囲み、具体的な症状・程度・支援方法（対処方法）をご記入ください。医療用語※は最後のページをご参照ください。】

例：

(1) 抑鬱状態

ア：思考・運動抑制 →

イ：易刺激性、興奮 → 週に1回程度、大きな音にイライラしてパニックになる。  
一時的に静かな環境に移動したり、イヤーマフやノイズキヤセリングイヤホンで音を遮断して対応している。

ウ：憂鬱気分 →

(1) 抑鬱状態※

ア：思考・運動抑制※ →

イ：易刺激性※、興奮 →

ウ：憂鬱気分※ →

(2) そう状態

ア：行為心拍※ →

イ：多弁 →

ウ：感情高揚・易刺激性※ →

(3) 幻覚妄想状態

ア：幻覚 →

イ：妄想 →

(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態

ア：興奮 →

イ：昏迷※ →

ウ：拒絶※ →

(5) 統合失調症等残遺状態

ア：自閉 →

イ：感情平板化※ →

ウ：意欲の減退 →

(6) 情動※及び行動の障害

ア：爆発性 →  
イ：暴力・衝動行為 →  
ウ：多動 →  
エ：食行動の異常 →  
オ：チック・汚言 →

(7) 不安及び不穏

ア：強度の不安・恐怖感 →  
イ：強迫体験 →  
ウ：心的外傷に関連する症状※ →  
エ：解離※・転換症状※ →

(8) てんかん発作等（けいれん及び意識障害）

ア：てんかん発作 →  
イ：意識障害 →

(9) 精神作用物質の乱用、依存等

ア：アルコール →  
イ：覚醒剤 →  
ウ：有機溶剤※ →

(ア) 乱用 (イ) 依存 (ウ) 残遺性※・遅発性精神病性障害※

現在の精神薬の使用 有・無 (不使用の場合は、その期間 年 月から)

(10) 知的・記憶・学習・注意の障害

ア：知的障害（精神遅滞） IQ : \_\_\_\_\_  
療育手帳の 有・無 等級等  
→  
イ：その他の記憶障害 ( )  
→  
ウ：学習の困難  
(ア) 読み (イ) 書き (ウ) 算数 (エ) その他 ( )  
→  
エ：遂行機能障害※ →  
オ：注意障害※ →

# 精神障害者保健福祉手帳診断書 医療用語説明

**抑鬱（よくうつ）** 気分が落ち込み、物事への意欲が低下する心の状態。

**思考・運動抑制** 思考や行動が鈍くなる精神的な症状。

**易刺激性** 些細な刺激や状況に対して、不機嫌になったり、イライラしたり、怒りやすくなる状態。

**憂鬱（ゆううつ）** 気分が落ち込み、物事への関心や意欲が低下した状態。

**行為心拍** 目標が定まらないまま次々と一時的な感情の動きで行動を起こしてしまう状態。

**幻覚妄想状態** 実際には存在しないものを五感で感じたり（幻覚）、事実ではないことを固く信じ込んだりする（妄想）状態。

**昏睡** 意識は保たれているにも関わらず、自発的な動作や外界への反応が著しく低下した意識障害。

**拒絶** 他者からの働きかけを拒む態度。

**統合失調症等残遺状態** 病気の活動性が低下し、主な症状が回復傾向にあるものの、意欲の低下、集中力の低下、感情の平板化（感情が乏しくなる）、無気力などの症状が長期にわたり残っている状態。

**感情平板化** 感情の表現が乏しくなり、感情の動きや起伏が乏しくなる状態。

**情動** 恐怖、驚き、喜びなどの急激で一時的な感情の動き。

**心的外傷に関する症状**

- ① 侵入症状：トラウマ的な体験がフラッシュバックや悪夢としてふいに、繰り返しよみがえり、あたかもその体験が今行っているかのように感じことがあります。
- ② 過覚醒症状：わずかな刺激に過敏に反応し、常に神経が張り詰めた状態になるため、イライラや怒りの感情が爆発しやすくなったり、不眠、集中力の低下、警戒心が強くなるなどの症状が現れる。
- ③ 回避・麻痺症状：トラウマと関連する場所、人、出来事、感情を避けるようになり、その体験について考えないようにしたり、感情を麻痺させてりすることがある。
- ④ 認知と気分の否定的な変化：自分自身や他者、世界に対して否定的な考えを抱くように

なり、未来に対して悲観的になったり、喜びや感情が感じられなくなったり、自己否定感が高まったりすることがある。

**解離症状** 強いストレスやトラウマ（心の傷）によって、意識、記憶、感情、身体感覚などが一時的に統合されず、バラバラに分断される状態。

**転換症状**：心理的なストレスや葛藤が、身体の麻痺、感覚の異常、けいれんなど身体症状として現れる現象

**有機溶剤** 他の物質を溶かす性質をもつ有機化合物で、水に溶けないものを溶かす液体の総称。 例) エタノール、アセトン、トルエンなど

**残遺性精神病性障害** 一見おさまっていたように見える症状が、残っている状態のこと。

**遅発性精神病性障害** 寛解したと思っていた精神病性障害の症状が、数日後あるいは数週間後に遅れて現れること。

**遂行機能障害** 目標を定めて計画を立て、それを段取りよく実行する応力が障害されている状態。

**注意障害** 注意が散漫になったり落ち着いて物事に取り組むことが困難になること。